**宮﨑健斗,片上大輔「マルチモーダル情報に基づく就職面接場面における被面接者の評価モデルの提案」『人工知能学会論文誌』36.5(人工知能学会,2021)pp.1-9.**

私は「相槌から納得度を予測すること」を卒業研究テーマとして検討中である。そのため今回は納得の要素である「理解」「受容」「主体性」と韻律情報の関連を検討した文献を調査した。

　宮﨑ら（2021）の文献で、韻律と動作および頭部特徴量のセットで主体性の推定精度が高いことが示唆されている。そして、韻律情報において主体性はインテンシティの幅と関連していることがわかった。ただし、韻律情報単独ではチャンスレベルに辛うじて届く精度であった。そして、この研究における主体性とは経済産業省が提唱している定義を用い「物事に進んで取り組む力」としていた。就職面接場面を想定しているためと思われる。私が研究で想定している場面は、医療者と患者の面談場面であるため、この定義が適切かは検討の余地がある。

　そして「理解」「受容」と韻律情報の関係を調査した文献は見つからず、この２点について韻律情報との関連を分析することで、納得と韻律情報の関連を見出せるのではないかと考えた。